

石巻市立雄勝中学校

2014年 12月 19日

大西 歩実(香川大学大学院教育学研究科)
北林 雅洋(香川大学教育学部)

【文献】

- (1)「東日本大震災における学校の対応-雄勝中学校-」宮城県 東日本大震災に係る教育関連記録集
<http://www.pref.miyagi.jp/uploaded/attachment/12397.pdf>

【場所】

雄勝湾から約450m離れており、学校の横は川が流れている。
住所:宮城県石巻市雄勝町雄勝字寺4-3
※現在は別の場所で仮設校舎で再開。



【東日本大震災による被害】

津波により3階建て校舎の屋上まで浸水。
※現在校舎は取り壊されている。

【震災当日の様子】

地震が起こった時、学校は卒業式を終えた後で生徒は全て下校していた。教職員は津波を予測し、「森林公園へ行こう」と呼びかけながらそれぞれ車で避難した。その頃には大津波警報発令のサイレンが町中で響いていた。教職員は、一度山側とは逆方向の海側に向かい、大原川にかかる橋を渡った。この小さな橋が落ちていたら職員もどうなっていたか分からない。雄勝には一本の道路が町を縦断しており、多くの住民がこの道路を避難してくると思われたが、渋滞することも無く、途中、落石等避けながら森林公園まで向かうことができた。この際、2人の職員が、家族の安否確認のため別れた。(内1名の職員が自宅ごと津波に流され亡くなる)

教職員が避難した森林公園には、住民の方々より最初に到着した。その後、生徒たちも避難してきて、13名を確認した。他の生徒はそれぞれ違う場所に避難した。森林公園へ避難した生徒たちは体一つで逃げてきているため、職員が服や靴を分けあてたりした。炊き出しのおにぎりは、一日1個か2個の配分しかなく、教員の分は全部子どもたちに分け与えた。

この学校では普段から、生徒がいた場合は3階か屋上へ避難、もしくは山へ避難誘導をする。生徒がいない場合は車で森林公園へ避難するというシミュレーションがされていた。また、下校した生徒たちは後に全員の無事が確認された。(1)

【調査して言えること】

学校は少し嵩上げされた土地にあった。標高は約6mほどで、海から約450mの場所にあり、また学校の横は川になっているため、地震の際に津波を警戒した避難の必要な学校である。また、川を挟んで反対側に石巻市立雄勝小学校がある。

学校の南側は山になっているが、斜面がコンクリートで固められており登れそうな斜面ではない。学校から南東に400mほどの山中に寺の墓地があり、そこは標高30mほどある。しかしそこに行くためには川沿いの道を海に向かう必要があり、津波の避難経路としては危険が伴う。また、教職員が避難した森林公園は学校から南西に2.6km離れた場所で標高は80m以上ある安全な避難場所である。しかし、車が使えないと避難するのは難しい場所である。

学校の周囲に登れそうな山はあるが、川や海が近いため、避難経路の確保に注意が必要な学校である。



北から見た学校のあった場所(2014/3/18撮影)



嵩上げの様子と学校の裏山の斜面(2014/3/18撮影)

※元の土地の標高は3.5mほど。